

第六期長期策定委員会 傍聴者アンケート
第14回実施分（令和元年7月5日開催） 自由記載欄

【傍聴者 9名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。 ※傍聴者 6名記載

<p>・クリエイティブ産業の促進(様々なクリエイターに対する支援)、子供の遊び場の確保と言った事項が議論されましたが、そちらに対して、プレイスのような市民の自由な活動の場となる施設の強化、あるいは追加という解決があると考えます。またシビックプライドの構築という観点から考えても、このような施設の重要性は多くの研究者が提唱しています。加えて提案させて頂くならば、クリエイティブ産業の促進を目指すならば、若者が自由に本格的なクリエイター用ツール、例えば音楽、動画作成のソフト、3Dプリンター等を使えるスペースがあればさらに良いと考えます。この立場で言うべきでない出過ぎた提案であり、また理想論であることは重々承知しておりますが、一市民の意見として受け取っていただければ幸いです。</p>
<p>・中村委員の論点整理は素晴らしい。(特に市職員の市内居住地化促進は新鮮)</p> <p>・市長の意見は誠実で本音感を感じた。</p>
<p>・児童館の必要性について、室内で、自由に、子供主体で朝から夕方まで居れる場所は絶対に必要です！！</p> <p>インクルーシブ教育も児童館も子供主体な考えであり、子供を大切に、主体に、自由に(大人が指示しない)できる街をつくる事によって、親子子供もイキイキとした市になると思います。</p>
<p>・インクルーシブ教育は大切だと思うが、障害の程度にもよるし、それが最善の利益か、重度の障害があっても通常級にというのが、とか、親の思いと子供の思いが同じかというお話がありましたが、この意見は、共生社会を目指そうとしているのに、障害者差別にあたる発言ですので、改めてください。インクルーシブ教育については、サラマンカ宣言・障害者の権利・子どもの権利を正しく知ってから、この先を生きる子どもたちが尊重しあえる内容の計画をたててください。</p>
<p>・負担と負担感があって負担感がなければ社会の支援の回路がなくなるという意味が分からない。負担に対して支援すればよいだけでは。逆に、変わらず、負担があるにもかかわらず、負担感だけ薄まっても実質何も変わらない。「コミセンの子ども受け入れ態度は運営委員したい」という言葉は気にいらぬ。子どもの権利条約を周知させないと。</p>
<p>・大上委員児童館への発言→委員の発言時のコミセンの対応⑦子どもを安全に自宅に、誰がつきそうのか</p> <p>・副委員長の公共施設……の発言</p>

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 ※傍聴者5名記載

<p>・景観の変化は著しくシビックプライドを損ねるものであり、景観条例の策定は必須だと私は考えます。</p>
<p>・長計は、委員、市民、市職員がばう大な労力をかけていて、ご苦労様と云いたい。</p>
<p>・不登校児対策のひとつとして、安心して居れる場所として児童館をぜひつくって下さい！！（我が子が不登校になり、通っているフリースクールは児童館そのものです）もし、行政が児童館を造って下さったら、救われる子供が多くいます。不登校児が増える今こそ、児童館をおねがいします！！</p>
<p>・健康・福祉への地域意見が少なかったのは、そういう意見を持つ人が、意見交換会の場に出て行きづらい環境にあるからで、充実しているからではないと思います。そういう声が入った長計にしてください。(意見を持っている人はたくさんいます。) P25の「本人の意思に基づいて」という点がとても大切です。</p>
<p>・引きこもりは家族の問題と言われていましたが、社会の構造の問題です。</p>
<p>・吉祥寺南口再開発(公会堂を含む)には市長の政治家としてのリーダーシップが期待される。</p> <p>・豊島区を見習う必要性は痛感。</p>

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)